松本市立梓川小学校

リバーアドベンチャー

≪生きる力向上型学習≫

2019 年度
中信地区環境教育ネットワーク
（ee ネット）登録団体
学習実践例

授業名：梓川リバーアドベンチャー

事前学習

学校名：松本市立梓川小学校
学年・人数：5年1－5組　155人
日時：8月27日 13：45 ～ 14：30
講師：リトルピークス
主な活動場所：学校多目的室

こどもと先生のねがい

梓川の源流からの話を聞きたい。
梓川の成り立ちについて。
川探検本番に向けて注意すること等。

こんな学習を・・・

大河の一滴スライドショー　、質疑応答

当日の様子

【実施概要】　「大河の一滴」についての講義
○梓川の旅（６５ｋｍ）についてスライドショーを見ながら学ぶ。
○自水の行方について学ぶ。

【実施状況】

5-1 水の大切さを考えることで、地球環境について考えた。
5-2 梓川の源流や、人工物の方が危険であることを教えていただいた。また、体験する内容や気を付けることを聞いた。
5-3 梓川の始まり、用水や護岸工事をされた川と自然にできた地形の残る河との違い・体験プログラムの紹介と注意。
5-4 梓川の源流や、人工物の方が危険であることを教えていただいた。また、体験する内容や気を付けることを聞いた。
5-5 普段何気なく見ている梓川について、実感を伴って考えることができた。

授業名：梓川リバーアドベンチャー

川探検

学校名：松本市立梓川小学校
学年・人数：5年1－5組　155人
日時：9月4日・5日
講師：リトルピークス
主な活動場所：梓川下島付近

こどもと先生のねがい

川の水が流れるとどうなるか、川の流れ、川の仕組みについて知りたい。水中の生物についても知りたい。

こんな学習を・・・

川のレスキュートレーニング、川遊び、水生昆虫探し
1Ｇ目　8:30 発（徒歩）～ 9:00 川着　9:10 ～活動～ 10:30 終了
2Ｇ目　10:00 発～ 10:30 川着　10:40 ～活動～ 12:00 終了
3Ｇ目　13:00 発～ 13:30 着　13:40 ～活動～ 14:45　終了
クラス毎、2日間にわたり実施する。

気を付けること

ガイドの注意を守る。水量、天候判断

≪子どもの服装≫
　水着、化学繊維のシャツ、濡れてもよい運動靴、靴下
≪講師側で準備する装備≫
　ウェットスーツ、ヘルメット、網、バット、ブルーシート、レスキューツール
≪学校側で準備する装備≫
　虫かご（1個）、水筒、救急バック、ライフジャケット（市教委）

当日の様子

【実施概要】　・梓川での体験
　ディフェンシブスイム　川の歩き方　アグレッシブスイム

【実施状況】

[5–1]

○川に実際に入る前の注意事項の指導を受ける。

○ディフェンシブスイム　川での流され方
・手足を上げラッコのような形になる。
・頭は上流を向くようになるように動かすが、
バタバタと動かさない。
・足がつくところで静かに歩きながら立つ。

○川の歩き方
・３．４人が縦になってしっかりと支えあいながら横に歩きながら上流のほうに歩く。
・先頭の人は、水圧を直接受けるので力のある人が良い。後ろの人は前の人を押しすぎずしっかりと支えることが大事である。

○おぼれている人の助け方
・ロープを声をかけながら近くに投げる。

○アグレッシブスイム　川遊び
・石の上から少し深いところへ飛び込む体験をする。
・飛び込んだ後は、岸までクロールで泳ぐ。

子ども達の感想

・川に入ることを、はじめは怖いと思っていたが、正しい方法を教えてもらったらだんだん楽しくなってきた。またやりたい。
・川の流れが結構強いことを初めて知ったので、これからは気を付けて川に入りたい。
・水が冷たくて始めのうちは騒いでいたが、終わりのころには「もっともっと。」とほとんどの児童が口にするほどだった。

先生方の振り返り

・普段は川に入ることができないので、実際に川の水圧を体験したり、安全な川での過ごし方を学べたりしたことは、今後の人生の中でよい経験になったと思う。
・環境教育だけでなく、指導員の方の体験話を聞くこともできたので、キャリア教育にもなったので良かった。

[5–2]

○体験の準備
　安全に楽しむために、ウエットスーツとライフジャケットを着用した。初めて着用する子がほとんどで、着ることに苦戦していた。着用の動きにくさなども感じながら、川まで移動した。

○ディフェンシブスイムと川の歩き方の体験
　まず、足を上げて川下を向くことや、ライフジャケットに体重を預けて浮かぶことを教えていただいた。
　次に、グループに分かれて、縦列で横向きに進む体験をした。一人あたりにかかる水圧の負担を少なく移動することができることが身をもって体験できた。

○川への飛び込み、アグレッシブスイム
　川に飛び込んでから岸まで泳ぐ体験をした。その後、ディフェンシブスイムで流れ、途中で方向を変えてからアグレッシブスイムに切り替えて泳ぐ練習をした。

子ども達の感想

・初めて川に入ってみると、水がとても冷たかったけど、やっていくとどんどん楽しくなった。
・ラッコ泳ぎが最初緊張したけど、問題なくできた。
・思っていたよりも流れがはやくて驚いた。またやりたい。

先生方の振り返り

・専門の道具を使い、専門の方に教えていただいたことで、楽しみながらも真剣に学び、体験する子どもたちの姿が印象的だった。
・子どもたちにとって、とても身近な梓川の新たな一面を知り、より自分たちの地域への理解が深まったように感じる。日記やふりかえりカードにもその気づきをたくさん書いていた。

川下り体験
顔や体の正面は川下に向かう、足を上げるなど、川を下る上での留意点を意識して、川を下る体験をした。

川渡り体験
チームを組み、川の流れに平行に縦列で横向きに進むことにより、一人あたりの負担を少なく移動することができることを体験した。

川下りから方向を変えて移動する体験
川を下る体験から、向きを変えて、斜め４５°上流に向かって泳ぐことにより、川を横断することができることを体験した

子ども達の感想

・一人ずつ流されていくのは、最初は心配だったけど、実際にやってみると楽しかった。
・外からゆるやかに見えるところでも、入ってみると自分で立つのがやっとだったが、流されたり飛び込んだりするのは楽しかった。

先生方の振り返り

・外部の方に教えてもらい、子ども達にとっていつもと違う気持ちの引き締まりを感じた。
・はじめてのことがらに不安感が大きく、なかなか取り組めない姿のある児童が、外部講師や周りの子どもたちの励ましによって、他の児童と同じプログラムを体験でき、本人も嬉しそうな表情を見せた。翌日も心情の表れた日記を書いてくることができた。

[5-4]

○体験の準備

ウェットスーツとライフジャケット、ヘルメットを着用し、安全に川で楽しむための、注意事項などを聞いた。

○川下り体験

・手足を上げラッコのような形になり、流される体験をした。

・身体の向きが変わってしまっても川下に身体を向けるよう助言された。回転しかけている子もいたが、手でバランスをとって川下を向くよう意識することができていた。

○川渡り体験

4 人 1 組になって一列で川を渡る体験をした。川の流れに平行に足並みを揃えて進むことで負担を少なくすることを学んだ。

1 番前の人が最も抵抗を受けるということで、自信のある子が前に来ていた。

○川で流されてしまった際の泳ぎ方体験

川でおぼれた際に上流に向かって泳ぐと助かる確率が低いということで、助ける人は下流に走り、流された人は下流側の岸の方へ泳ぐという体験をした。

川へ飛び込む川遊びも体験することができた。

[5–4]

子ども達の感想

川に流される体験をして、流されるのにもコツがあるなんて思わなかったです。やってみたけど、思っていたよりもとても難しかったです。飛びこみをしたときは、思っていたよりも深くてびっくりしました。さらに泳いでも泳いでも全然向こうに行かなくて川の流れは強いなあと思いました。とっても冷たくておどろきました。

このように身をもって、川の危険さを体験することができ、川で遊ぶ際には、ライフジャケットなどを着用し、安全に遊びたいという感想がとても多かったです。

先生方の振り返り

地元の梓川の魅力を学ぶ良い機会になったと同時に、川で遊ぶときのポイントを、専門家の方々の様々な視点から学ぶことができ、とてもためになりました。今回の実践を家族や、友達にも広め、地元の梓川で安全に楽しく遊んでほしいなと思います。

[5–5]

○ウエットスーツ・ライフジャケット・ヘルメットをかぶって準備万端！！

○ディフェンシブスイム（川での流され方を学ぶ）
・手足をあげる（ラッコのような形）
・頭を動かさない（バタバタしない）
・足がつくところで静かに歩きながら立つ。（あわてない）

○川の歩き方
・３～４人で縦になって支え合いながら、リズムを合わせて横に歩く。
・先頭の人は、水圧を直接受けるので力のある人がよい。後ろの人は、前の人を押しすぎず、しっかり支える。

○川へ飛び込む
・頭から飛び込む。おなかから落ちてもいい。飛び込んだ後は、岸までアグレッシブスイム（顔を上げてのクロール）で泳ぐ。

子ども達の感想

・体験して思ったことは、梓川は水がすごい冷たい。でも、冷たい方が気持ちよくて楽しかったです。やる前は、本当に浮くのか分かんなくて、少しやばそうと思ったけれど、本当に浮けたので、普通にできるようになりました。初めての川は成功だと思います。
・温かいと思ったけど、めっちゃ冷たかった。流れが強くて、流されそうになりかけた。ラッコの泳ぎ方は、シューってなって気持ちよかった。３人か４人で、横にせーので息を合わせていくので感じたのは、一番前にいて、水の圧でどんどんおされて、流れの強い時は絶対に川に入らないようにしたい。
・川で泳ぐことは怖いと思っていたけれど、体験してみたら意外にそこまで怖くありませんでした。３人組を作って、激流を歩いたことや川に飛びこんだことは怖かったけれど、先にやっている人をみたら、とても上手にできていました。私もできると思ってやったら、上手にできました。リバーアドベンチャーが体験できてよかったです。

先生方の振り返り

・昨年の安曇小学校に引き続き、梓川小学校でも体験させていただきました。上流とは体験する内容が変わりましたが、安全面に配慮していただき、子どもたちも楽しく地元の川に入ることができました。
・一緒に梓川についての学習も進めた所、上流の安曇３ダムのことを全く知らなかったり、泳ぐのには適していない川だと思っていたりとマイナス面のイメージがあったようです。しかしながら、この体験を通して、梓川を自慢の川だと言えるようになりたいとの思いを持つ子どもたちが出てくるなど、川遊びを体験することで、子どもたちの意識も変わってきたように思う。

講師の振り返り

・当日は前日の雨と取水堰放流で濁流＆激流となったがその分良い意味での緊張感と達成感がえられたのではないかと思います。災害（水害）などの危機に出会ったとき今日の体験が少しでも役立ってもらえればうれしい。
・川の激流徒歩横断体験ではグループ皆が協力しいないとうまくいかないことを身をもって体験してもらえたことはよかった。
・ゲーム遊びなどではどうしても視野がせまくなるが、全体を大きく見回す必要を 感じてもらえたのではないか。
・今回の川遊びで子ども達が梓川を大好きになってもらえるといい。梓川をもっと好きになって川をきれいにし、梓川を自慢する気持ちになってくれるとうれしい。
・クラスによって生徒の行動や雰囲気が大いに違って面白かった。先生の影響大？
・生徒の真剣なまなざしと笑顔をみたら苦労も吹き飛ぶ。フィールドでの子供達の表情や行動はこちらもパワーをもらいます。
・梓川小学校は名のごとく梓川とともにある。川を知り、川に親しみ、川の恵みを感じてもらったら幸いです。

コーディネータから

≪事前学習 8 月 27 日≫
・信州の川は急流なので色々加工されていて自然の状態ではないので子供達が遊びにくい状態にあることが理解できた。
・そのためか、梓川が身近なはずの梓川小学校の生徒でも梓川の事をよく知らない様子だった。(桐)
・冬の槍ヶ岳から雪解け、そこに生息する動物、植物の様子と共に水のもたらす様々な様子が美しい映像とともに表された良いスライドです。自然のみならず様々な人が登場することもあり、子供たちが興味を持って集中して話を聞くことができていた。
・また、子供たちへの質問も、答えやすいレベルのものに工夫され、子供たちもよく反応していた。
・川での人工物の危険性など、子供たちにとっては思いもかけないことも知ることができ、興味深く聞き入っていた。(高)
≪川探検　9 月 4 日≫
・倭橋から上流の梓川は景観が下流と全く異なり、自然がかなり色濃く残っているのに驚いた。
・ミネちゃん、まっちゃん。もあちゃん、志保ちゃんの 4 人は真のプロであり素晴らしい講師であった。授業を無事安全に終わらせることへの集中力はすごい。
・前日の雨で川が増水し激流となって授業をどうするのか心配したがさすがにプロでそれなりの工夫でうまくテーマ設定されていた。
・初めてウエットスーツ、ライフジャケット、ヘルメット着用をお手伝いしたが特にウエットスーツの着脱に生徒が苦戦しサポートに時間がかかってしまった。(桐)
≪川探検　9 月 5 日≫
・今は川は危険という風潮で、川を知り、川と親しむ機会が喪失しつつある現在今回の　授業は大変身近な場所での、まさにアドベンチャー体験は一生ものの思い出になると思う。
・先生も生徒と同じレベルで川体験できたことは今後の川、海、環境教育につながると思う。
・生徒　最初おずおず　終盤は大胆に　慣れてくると川、水の面白さ楽しさを十分味わえたのではないか。（給食いらない、もっとここに居たい）
・徒歩で３０分往復１時間、特に帰りの３０分は疲れて大変だったと思うが、川と学校との距離感を感じられてバスで移動するよりよほど良いと思う。
・途中で河川管理事務所のパトロールカーが来て２名の職員が小さな子供さんたちに川に親しんでもらうことは大変うれしい事だと述べておられうれしかった。
・トイレが近くて助かったが緊急トイレ　腹痛　靴脱げ等思わぬハプニングもあり子供対応の難しさを感じたのと　サポート人員は少し余裕があったら助かる。
・なにはともあれ子供たちのうれしそうな笑顔や輝き、グループでの協力行動の大切さ上手くいかない子供への手助け等新鮮で感動することばかりでした。(里)